2025年度(令和7年度)学校評価自己評価表

城南中学校区	校番 60	福山市立川口東小学校
最終更新日		2025年(令和7年)4月10日

I 福山市

ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン 各中学校区・学校が資質・能力の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容 <ul style="list-style-type: none"> 児童生徒が授業や特別活動の各面で自分の考えていることや自分の頑張っていることを表現する場があり、一人一人が認められている。 児童生徒が主体的に学びに向かうように教師が熱心にサポートしている。 具体的な評価指標を検討し、家庭や地域と連携を図りながら効果的に取り組んでいくとよい。 	児童生徒の現状 <ul style="list-style-type: none"> 友達と話し合ったり学び合ったりすることに楽しさを感じている。 縦割り班活動や委員会活動では、児童生徒の企画立案により異学年交流をすることで、自己肯定感が高まっている。 知識や技能の習得が十分ではなく、特に言葉や数の理解と表現することに課題がある。 	育成する力 資質・能力 めざす子ども像(義務教育修了時の姿) 中学校区として統一した取組等	課題発見する力(課題を見つける) 対話する力(コミュニケーション) 認める態度(人としての思いやり) <ul style="list-style-type: none"> 自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することができる児童生徒 様々な課題を自ら求め、お互いの意見を尊重しながら対話による課題解決を図る主体性を持つ児童生徒 ○ 学習指導要領に立ち返り、知識技能の定着にこだわった授業づくりを各学校で実践し、協議を継続する。 ○ 各校での研修にお互い参加し合い、事後協議等において共通課題に対する各校の取組や状況を交流する。
--	---	---	--

III 自校

ミッション
「自ら伸びる」
 児童の豊かな人間性を育む中で、「関わり」「繋がり」を尊重できる教育内容を創造し、児童が主体的に未来社会を拓く力を育てる。

学校教育目標
 夢が語れ 誇りを持ち 社会に貢献できる子どもの育成

現状

<児童生徒>
 ・全国学力テストでは、無回答の児童が少なく意欲が高いことがうかがえるが、知識・技能の定着、思考力・判断力・表現力の向上に課題がある。
 ・学びののびを把握する調査において、非認知能力の「自己肯定感」が伸びている児童は学習の成果が伸びている。
 ・話し合いの仕方、学習方略、思考ツールの選択など多様な学習に対する方略の選択には課題がある。
 ・家庭学習で全くやらない児童は少ない。しかし、学校で行ったり、教師からの声掛けでやっとできたりする児童も少なくない。

<授業>
 ・話し合いをしたり、友達と学習したりする意欲は高い。さらに話し合っただけで分かったことがあると前向きに回答している児童は91%である。
 ・「付けたい力」を意識した単元のゴールを設定し、生活科・総合的な学習の時間等各教科を関連させながら、児童が主体的に学ぶ教育活動・授業改善を進めている。

育成する力 資質・能力 めざす子ども像	課題を見つける力(自己決定) 対話をする力(コミュニケーション) 認め合う態度(思いやり) 「自ら伸びようとする子ども」 明確な目標をたて、その目標にせまる学び方を選択したり、自ら見いだしたり解決に向けて方法をさぐる。 課題や問題解決のために自己の経験などから意見を伝えたり、他者と対話することで考えを評価したり、深めたりして互いの考えを生かし合う。 自己の考えや思いについて自信を持ったり認めたり、他者の思いや立場を尊重し、互いに高め合うことができる。
--------------------------------------	--

研究	テーマ	ガッツ&スマイル ウィズ! ～やりたいから始まる・分かるから楽しい～
	内容等	自らのゴールに向け主体的・協働的に課題解決に取り組む学びづくり ～書く力・読む力を高める授業づくり～
めざす授業の姿		<ul style="list-style-type: none"> 自ら課題を発見し選択すると共に、見通しを持って粘り強くチャレンジしている。 自分の考えをもち、表現し合う中で思考をつなげ、仲間と共に考えを深め合っている。 教員が単元でつけるべき力を明確にし、子ども達との対話の中で正しく用語を用いながら、練り合うことができる。

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立川口東小学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)			
							□指標に係る 取組状況	70%以上 達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	70%以上 達成 評価	総合 評価	改善方策
4	自ら考えようとする意欲を育み、「学びが面白い」と主体的に取り組む児童を育てる。	★	継続	自ら考えようとする意欲を育む授業づくりを行う。 授業作りを通して、「できた、わかった、使えた」と感じる児童を育てる。	①身につけた知識・技能を使い表現する場を設定し、授業づくりの実践・検証・交流する。 ②児童が必然性をもって考えている姿を考え、職員間で見合い、交流する。 ③練合の視点を「共通点」にしほり、比較することで理解につなげる。	単元でつけるべき力をつけ、焦点を絞った練り合いを通して主体的に学習している。 ①授業の参観・交流を通して、自分の授業の検証・改善の実施。 【教ア：100%】 ②授業で「できた・分かった」と感じた児童。 【見ア：90%以上】 ③算数科知識・技能の観点 【40%未満児童を10%未満】							
4	自己有力感・自己肯定感をもてる児童を育てる。		継続	自分のよさがわかる児童を育てる 自分のよさを周りのために役立てている児童を育てる。 自分の居場所があると感じる児童を育てる。	①自己表現の場や認め合える場を設定する。 ②様々な場面で選択、適切な振り返りを習慣化する。 ③家庭との関係づくり、しんどい思いをしている児童の思いを的確に把握する。	よりよい自分や集団を目指し関わり合い、自信を深めている。 ①係活動や委員会活動などに主体的に関わり、意見交流しながら活動 ②目的に沿った振り返り次時の見通しをもつ 【見ア：85%以上】 ③前年度欠席日数が30日以上の子どもの出席日数が前年度より増えている 【欠席日数前年度比減の児童が60%】							
4	主体的に運動に親しみ、元気に過ごそうとする児童を育てる。		継続	自らが健康で元気に過ごすために、自分に合った運動に進んで取り組む児童を育てる。	①健康に過ごすためにできることを考える場を設定する。 ②体育科を中心に多様な運動に親しめる場の工夫をする。 ③教員も一緒に出て遊ぶ企画を子ども主体で提案・実施する。	様々な運動を経験し、自分に合った運動を選ぶことで、運動の楽しさを味わっている。 ①自分の生活上の課題を見つけてくれた児童・自分の課題を改善しようとしている児童 【見ア：85%以上】 ②多様な運動に親しめるよう、場を工夫して設定した。 【教ア：85%以上】							
4	保護者から信頼される学校にする。		継続	学校が楽しいと感じ、毎日、元気に登校できる児童を育てる。	①一人一人の思いに寄り添い、チーム川口東として、組織的かつ丁寧に対応。	教職員は、児童一人一人を大切に教育活動を行っている 【保ア：80%以上】							

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。